

足立敏之 参議院議員の講演要旨

日時 令和5年2月20日(月) 11:00~11:30

場所 グランドアーク半蔵門 3階 華の間(総会会場)

配布資料

1. 建設産業の再生とインフラの再生に向けて(p13)
2. 参議院災害対策特別委員会会議録(令和4年11月16日)(p12)

講演要旨

衆議院予算委員会で令和5年予算が2月28日に通過予定で、3月後半には参議院で可決される見通しである。私は参議院予算委員会の理事を務めており、テレビでも映るようになりました。

昨年7月の参議院選挙ではお陰様で2期目の当選を果たしました。応援に感謝申し上げます。

お手元の資料1でお話します。私は現場主義で、災害現場に行けば何が必要かを教えてくれる。建設産業には「量の確保」と「質の確保」が不可欠です。「量の確保」では、公共投資の拡大が必要で、これによって「脆弱な日本、貧弱な日本のインフラを立て直す」のです。これをスローガンにしている。事前防災も重要です。

今年1月に家族とシンガポールに行って、日本の空港、港湾のインフラが如何に遅れているかを実感しました。日本では毎年大規模な自然災害が発生している。日本のインフラは貧弱で、高速道路の100km²当たりの4車線の延長が日本の1.85km(暫定2車線除く)に対して韓国は4.18kmと2倍以上である。国交省道路局は、4車線化を柱に据えている。港湾、空港も負けている。

GDPは戦後4回低迷期があったが、新型コロナの影響が最大だ。主要国の中でGDPは日本が3位だが、人口一人あたりGDPは、OECD諸国の中で低い。他国は伸びているのに日本は低迷している。こんな中で建設分野の役割は大きい。日本のGDPに占める公共投資が大きいから減らせと言われてきたが、日本のインフラ整備は、諸外国に比べ山が多く橋梁やトンネルなどの構造物比率が25%(欧米は3~10%)であり高コストとなっている。災害大国ゆえ予防にも金がかかる。

公共投資比率(1996に対する2017までの伸び)0.5で、GDP伸率もゼロ近くで低迷しているのに対して、韓国は公共投資比率2.7倍で伸率も300%と伸びている。日本の公共投資は当初予算が平成24年の底から6兆円まで回復してきている。現在は補正予算に知恵を出している。

防衛力整備の財源として、法人税4~5%、所得税1%(復興特別所得税を1%減にして期間延長)、たばこ税(3円/1本)が決定しているが、法人税の影響は4%程度であり、中小企業への影響はほぼなく、社会的影響は少ない。防衛費を上げて、防災をやらぬとは言えない。

質の確保「新3Kに向けて」では、日本の賃金がOECD加盟国の中では24位と低い(韓国20位)。海外労働者の雇用が大変である。2014年に韓国と賃金が逆転しているが、給与をUPして逆転したい。工事設計労務単価、設計業務委託等技術者単価の今回の大幅UPは、良い刺激になる。加点措置も継続と聞くので、経営者の皆さんは賃上げに取り組んでいただきたい。休暇も増えてきている。希望の持てる「未来へ繋がるビックプロジェクト」については、野崎建コン協会長からビジョンについて伺っているが、近畿の吉津支部長からも西日本のプロジェクト集づくりについての以前取組みを伺った。建設コンサルタントの皆さんには、是非夢のあるプロジェクトを考えて「日本ではこんなプロジェクトが必要である」ということを国民に知ってもらうよう考えられたい。

引続き、建設産業分野の代表として建設産業の再生に全力で取り組んでいきたい。